

# 2023年度 環境経営レポート

自 2023年06月01日

至 2024年05月31日





発行日:2024年06月10日

日本ニューロン株式会社



# [目次]

1.環境経営方針	··· P2
2.組織・事業の概要	P3
3.認証登録の対象範囲	··· P3
4.環境マネジメント実施体制	··· P4
5.環境経営目標	··· P5
6.中期環境経営目標	··· P6∼10
7.自然共生活動	··· P11∼14
8.環境関連法規等の遵守評価結果、 違反・訴訟の有無	P15
9.代表者による全体の評価と見直し指示	…P16∼17



#### 1. 環境経営方針

# 社 是 ~Be Comfortable! ~ ~こころよく、ここちよく! ~

《行動方針》

日本二ューロン株式会社は、身近なライフラインからエネルギー開発、宇宙 産業にいたるまでのあらゆるエンジニアリングにおいて、パイプラインをジョ イントする役割をもつ「伸縮管」を創造しております。

当社の創造活動が地球環境に及ぼす影響を認識し、エコアクション21を取り入れた環境マネジメントシステムを確立し、全社員で運用、改善向上を継続的に進めていきます。

- 1. 環境に経営を位置付けて環境経営推進をめざし、経営における課題とチャンスを明確にして環境への取り組みに反映させます。
- 2. 事業活動に伴う環境側面を適切に管理し、地球環境への負荷の低減と 汚染の予防に取り組みます。
- 3. 低炭素社会、循環型社会、自然共生社会づくりに役立つ、製品・技術及び工法の開発に取り組みます。またグリーン調達に努めます。
- 4. 環境マネジメントシステムを定期的に見直し、有効性を高め、継続的な改善、改善に努めます。
- 5. 環境関連法規制及び地域並びにお客様の環境関連要求事項を遵守します。
- 6. 環境経営レポートを通じて、環境活動の状況を社内外に公開します。
- 7. 本方針を全従業員に周知します。
- 8. SDGsを環境経営に活かして推進いたします。

制定日 2011年11月01日 第一回改定日 2019年 6月15日 第二回改定日 2021年 6月28日

> 日本ニューロン株式会社 代表取締役 岩本 泰一



## 2. 組織事業の概要

事業者名	日本ニューロン株式会社					
代表者名	代表取締役 岩本 泰一					
事業所名/所在地	本社 京都府相楽郡精華町光台三丁目2番地18					
	管路防災研究所 京都府相楽郡精華町光台二丁目2番地5					
	東京オフィス 東京都品川区東五反田一丁目10-7 AIOS五反田					
	大阪オフィス 大阪府大阪市北区万歳町3-12					
EMS管理責任者	正 専務取締役 岩本 康浩 /副 総務部部長 橋本 茂美					
EMS担当者	製造本部 西森 一喜					
連絡先	TEL:0774-95-3900 FAX:0774-95-3905 ホームページ: https://www.neuron.ne.jp E-mail:info@neuron.ne.jp					
事業内容	<ul><li>・各種伸縮管継手、熱交換器用厚肉ベローズ、 フレキシブルチューブ、ダンパ、圧力容器の設計製作</li><li>・配管応力解析及び金属成分分析</li></ul>					

#### 事業規模 《2023年6月1日~2024年5月31日》

売上金額	20億0760万円(2023年度)				
資本金	30,000,000円				
従業員数	55名	55名			
本社・工場	延面積	5,152㎡/敷地面積	10,850ന്		
管路防災研究所	延面積	1,589㎡/敷地面積	8,524m²		
		A-4-1			



#### 3.認証登録の対象組織・活動

登録組織名	日本ニューロン株式会社
対象事業活動	伸縮管継手等の設計製作,配管応力解析及び金属成分分析
備考	けいはんなサウスラボ「管路防災研究所」/大阪オフィス 2023年度より適用範囲へ入れる。 (管路防災研究所については2023年度(2023年6月〜2024年5月)は、電気使用量、 水使用量を監視し基準年量を把握する。2024年度から目標設定を開始)

環境経営レポートの対象期間・発行日

対 象 期 間 : 2023年06月01日~2024年05月31日

発 行 日 : 2024年06月10日 次年度発行日: 2025年06月10日



#### 4.環境マネジメント実施体制

組織図

#### 代表取締役

岩本 泰一

EMS管理責任者

大阪われ 責任者 鳥 吉雄 東京われ 責任者 岩本康浩 正: 専務取締役 岩本 康浩副: 取締役 部長 橋本 茂美

EMS管理事務局

西森 一喜

営業技術本部

常務取締役 北村 亮太 管路防災研究所

グループ長 金丸佑樹 エンジニアリング本部

主幹 青葉 邦夫 製造本部

工場長 大西 雅行 総務部

取締役 部長橋本 茂美

品質保証部

マネーシ゛ャ― 森 龍洋

#### 役割分担表

代表取締役	環境マネジメントシステム(EMS)の総括責任 環境経営方針の制定及び周知 環境関連法規制等の周知及び管理 EMSに必要な経営資源の準備 EMS管理責任者の任命 環境経営目標及び環境活動計画の承認 EMSの定期的評価・見直し・指示の実施 環境経営レポートの承認
EMS管理責任者	環境マネジメントシステム(EMS)の構築・運用 EMSを構築・実施し、評価し、代表者に報告 EMSに関する教育・訓練の実施 環境負荷(エネルギー・廃棄物等)データの管理 EMSに関する文書・記録の作成及び管理 環境コミュニケーション 環境経営レポートの作成、公開
EMS管理事務局	EMS管理責任者の補佐
営業技術本部	受注活動。主として、受注担当
管路防災研究所	研究開発活動。主として、試験・開発担当
エンジニアリング本部	設計開発活動。主として、設計・開発担当
製造本部	製造活動。主として、設備、材料、製造プロセスタントう
総務部	総務・外注管理活動。主として、総務機能・外注管理担当
品質保証部	品質管理・品質保証活動。主として、品質管理担当
東京オフィス/大阪オフィス	受注活動。主として、営業担当



#### 5. 環境経営目標

事業活動において、次の重点課題に関する目標を設定し取組みます。

- (1) 電力消費によるCO2排出量の削減
- 化石燃料消費によるCO2排出量の削減 2
- 全CO2排出量の削減 (3)
- 水道水使用量の節減 **(4)**
- 廃棄物の分別、減量、再使用、再生利用の推進 **(5)**
- 環境に配慮した事業活動の推進 **(6)**
- 業務上必要な調達品のグリーン購入の推進  $\overline{7}$
- 化学物質の適正管理 8
- 自然共生活動による生態系保全 9

# SUSTAINABLE GALS DEVELOPMENT GALS





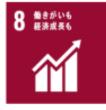
































# **6.中期環境経営目標 ≪** 2021年度~2023年度目標 ≫ 計画日: 2021年6月1日

環境経営方針の実現を目指し、基準年の実績を考慮して、環境経営目標を策定しました。

基準年度:2020年度(2020年6月1日~2021年5月31日)<u>但し、電力のCo2排出係数は2021年度変更</u>中期目標策定方針:基準年度実績に比べ 2023年度に 何%削減/増加 ※6.売上は前年度が基準

項目 1.電力 2.燃料	4.水	5. 産廃	6. 一般廃	7.売上	8.研究	9.提案	10.G購入
目標値 △3% △3%	Δ3%	△3%	Δ3%	+3%	+3%	+3%	+3%
環境経営目標 NO 管理指標	基準年 2020年度	2021年度		2022年度		2023年度	
	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
電力消費量 kWh	264,608	261,962	263,266	259,316	243,973	256,670	267,839
1.電力のCO2排出量削減 電力による→ Kg-CO2	140,745	81,368	81,774	80,546	75,712	79,724	83,015
ガソリン使用量 ℓ	2,597	2,571	2, 353	2,545	1,444	2,519	775.7
軽油使用量 &	2,793	2,699	2, 854	2,737	2,477	2,709	3274
灯油使用量 &	2,062	2,041	2, 311	2,021	2,213	2,000	3257
都市ガス使用量 ㎡	228	226	230	228	176	221	182
プロパンガス ㎡	11	14	11	14	10	10	9
2. 化石燃料のCO2排出量削減 化石燃料による Kg-CO2	19,882	19,683	20,101	19,487	16,544	19,285	19,664
3.1 全CO2排出量 Kg-CO2	160,626	100,149	101,876	99,147	92,255	99,009	102,679
3.2 全CO2量/売上 百万円当	60	59	59	58	57	57	51
4.総排水量(水使用量)の削減 水道水使用量 m <sup>3</sup>	2544	2,528	2,076	2,503	2,422	2,477	2,013
5.1 産業廃棄物削減 kg	13,941	13,802	27,651	13,664	16,558	13,523	14,036
5.2 一般廃棄物削減 可燃ごみ kg	960	950	960	941	960	931	960
6.1 事業活動での環境配慮 伸縮管継手等納入金額 百万円	1,680	1,697	1,718	1,714	1620	1,730	2,007
6.2 事業活動での環境配慮 研究開発・実証研究の完了件数	3	3	4	3	4	3	5
6.3 事業活動での環境配慮 改善提案件数	233	235	199	238	163	240	149
7.グリーン購入 環境配慮製品購入品目数	21	21	22	21	25	22	33
8.化学物質の管理	規定遵守	規定遵守	規定遵守	規定遵守	規定遵守	数量管理 規定遵守	数量管理 規定遵守
9.自然共生活動 ビオトープ等維持	維持	維持	維持	維持	維持	維持	維持

備考※電力消費量は東京オフィス含む ※実績値には管路防災研究所を含まない

<sup>※</sup>電力のCO2排出係数

<sup>: 0.442</sup> kg-CO2/kWh (東京ガス㈱2021年度調整後の係数)

<sup>: 0.309</sup> kg-CO2/kWh (関西電力㈱2021年度調整後の係数)

<sup>3.</sup>全CO2量/売上 百万円当の目標値は前年売上対比。

<sup>8.</sup>化学物質(塗料・溶剤等)の管理は、2022年度より数値管理開始

<sup>9.</sup>自然共生活動は、P11~「7.自然共生活動」参照

## 環境活動計画、取組結果、評価、次年度の取組内容 評価:2024年06月07日

### 2023年度 環境活動計画/実績表 (6月~翌5月)

※基準値は2020年度とする。(売上関係のみ基準値は前年度)

環境経営目標 NO 管理指標	指標の 区分	指標の値	単位	達成 状況	結果の評価・考察
1.電力のCO2排出量の 削減	基準値 目標値 実績値	140,745 79,724 83,015	kg- CO2	Δ	昨年度に電力会社を変更、二酸化炭素排出係数の 見直しを行ったため、基準値と目標値に差が出た 売上増加を考慮すると評価できる
2.1化石燃料の CO2排出量の削減	基準値 目標値 実績値	19,882 19,285 19,663	kg- CO2	Δ	ガソリン削減、軽油と灯油は増加 トラックやキャラバン等売上に直接影響のある車両 使用量が増えた
3.1全CO2排出量	基準値 目標値 実績値	160,626 99,009 102,679	kg- CO2	Δ	基準年比: 大幅な削減 目標ほぼ達成
3.2全CO2排出量/ 百万円当たり	基準値 目標値 実績値	60 57 51	kg-CO2/ 百万円	0	売上の増加と比較し、Co2排出量は増加していない 効率的な活動ができていると評価
年度の売上	2021年度 2022年度 2023年度	1,718 1,620 2,007	百万円	0	売上目標は達成
4.水使用量の削減	基準値 目標値 実績値	2,554 2,477 2,013	m³	0	水道事業の売上増加しているにもかかわらず、使用量の削減ができてる。試験方法等の改善が評価できる
5.1産業廃棄物の削減	基準値 目標値 実績値	13,941 13,523 14,036	kg	Δ	産業廃棄物の集計を見直した 基準年度の数値も再度集計しなおした 汚泥の特殊要因があったがほぼ達成 マニフェストに基づき適正な廃棄を遂行
5.2一般廃棄物の削減 可燃ごみ(紙ごみ)	基準値 目標値 実績値	960 931 960	kg	Δ	ほぼ目標達成。ペーパーレス化を進める
6.1事業活動での環境配慮 (納入金額 百万円)	2021年度 2022年度 2023年度	1,718 1,620 2,007	百万円	0	納入金額(売上高)20億円超えと目標達成 水道の納入金額も増加、
6.2事業活動での環境配慮 研究開発・実証研究の 完了件数	基準値 目標値 実績値	3 3 5	件	0	優先順位がつけにくいなかであるが、スピードを持って対応 してほしい
6.3 事業活動での環境配慮 改善提案件数	基準値 目標値 実績値	233 240 149	件	×	有効な改善もあるが、まずは件数を増やすこと 目標は未達 次年度は200件以上を必須
7. グリーン購入 環境配慮製品購入品目数	基準値 目標値 実績値	21 22 33	品目	0	グリーン購入を積極的に継続
8.化学物質の管理 社内規定に従い実施		規定遵守/数量監視			
9.自然共生活動 ビオトープ等	手維持 	けいはんな記念公園様指導を元に自社にてメンテナンスを継続 貴重な生物の発見もあり、自然共生を意識したビオトープを維持			に自社にてメンテナンスを継続 共生を意識したビオトープを維持

# 2023年度 達成手段・取組評価

	達成手段	取組評価 (〇・×)		
1.電力のCO2排出量の削減	休憩時間の消灯(事務所、工場、エントランス) クールビズ・ウォームビズの推奨	O O		
2.1化石燃料のCO2排出量の削減	現在の省エネの取組みを周知徹底していく	0		
3.1全CO2排出量	工場屋根に遮熱塗料塗布を行い 継続的な暑さ対策を取り入れた	〇 使用電力を増大させずに暑さ 対策を行い効果があった		
3.2全CO2排出量/百万円当たり	環境に効率よい製造ができた	0		
年度の売上	評価事業や現地事業の増加	0		
4.水使用量の削減	水道事業の案件が増え使用量の増加が見込まれる が日々の生活で節水意識を持つ	0		
5.1産業廃棄物の削減	入荷品の簡易梱包依頼 木製パレットの納入業者引取依頼 パレットや梱包材の再利用	Δ O O		
5.2一般廃棄物の削減 可燃ごみ(紙ごみ)	裏紙プリンターの増設。両面印刷機能活用。 リサイクルの徹底、紙の使用量を監視	O O		
6.1 事業活動での環境配慮 (納入金額 百万円)	管路防災研究所での視察説明会や セミナーを開催	0		
6.2事業活動での環境配慮 研究開発・実証研究の完了件数	各大学とのR&Dに加え、論文発表まで完了	0		
6.3事業活動での環境配慮 改善提案件数	月一人1件の目標設定を制定	×		
7. グリーン購入環境配慮製品 購入品目数	エコ商品の推奨	0		
8.化学物質の管理社内規定に従い実施	規定遵守/数量監視			
9.自然共生活動ビオトープ等維持	ビオトープの維持管理だけでなく、屋上菜園、正面玄関の芝桜の維持管理を行った。			

# 次年度(2024年度)の環境経営目標・環境経営計画

※基準年度を2023年度とする。電力および水使用量については管路防災研究所を含む。

環境経営目標 NO 管理指標	指標の区分	指標の値	単位		
1.電力のCO2排出量の削減	基準値 目標値	104,482 103,438	Kg-CO2		
2.1化石燃料のCO2排出量の削減	基準値 目標値	19,664 19,467	Kg-CO2		
3.1全CO2排出量	基準値 目標値	124,146 122,904	Kg-CO2		
3.2全CO2排出量/百万円当たり	基準値 目標値	62 61	Kg-CO2/百万円		
年度の売上	基準値 目標値	2,007 2,027	百万円		
4.水使用量の削減	基準値 目標値	2,067 2,046	m <sup>²</sup>		
5.1産業廃棄物の削減	基準値目標値	14,036 13,895	kg		
5.2一般廃棄物の削減 可燃ごみ(紙ごみ)	基準値 目標値	960 950	kg		
6.1 事業活動での環境配慮 (納入金額 百万円)	基準値 目標値	2,007 2,027	百万円		
6.2事業活動での環境配慮 研究開発・実証研究の完了件数	基準値 目標値	5 5	件		
6.3事業活動での環境配慮改善提案件数	基準値 目標値	200 202	件(基準値は代表者による指示)		
7. グリーン購入 環境配慮製品購入品目数	基準値 目標値	33 33	品目		
8.化学物質の管理 社内規定に従い実施	規定遵守/数量監視				
9.自然共生活動 ビオトープ等維持	ビオトープは絶滅危惧種のバッタや貴重な生物の生息、定着が確認できた。池の水質も改良され、生物が目視できる透明度になっていきている。 ビオトープだけでなく屋上菜園、正面玄関の芝桜等のメンテナンスも含め維持管理を行う。				

# 次年度(2024年度)の達成手段目標

	継続達成手段	新追加 達成手段
1.電力のCO2排出量の削減	休憩時間の消灯(事務所、工場) クールビズ・ウォームビズの推奨	休憩時間消灯追加 (PC、大型モニター、エントランス)
2.1化石燃料のCO2排出量の削減	現在の省エネの取組みを 周知徹底していく	効率的な車両使用を意識
3.1全CO2排出量	工場屋根に遮熱塗料塗布を行い 継続的な暑さ対策を取り入れた	空調管理を徹底する。 (こまめな清掃や乾燥を実施)
3.2全CO2排出量/百万円当たり	効率よい製造を継続する	今までにないオフェンス活動を行う
年度の売上	評価事業や現地事業の増加	展示会に参加し、水道関連の売上増加を達成
4.水使用量の削減	水道事業の案件が増え使用量の増加が 見込まれるが日々の生活で節水意識を 持つ	従業員全員で日々の節水意識を持つ
5.1産業廃棄物の削減	入荷品の簡易梱包依頼 木製パレットの納入業者引取依頼 パレットや梱包材の再利用	廃棄物分類一覧を掲示し 適正な廃棄を各自意識する
5.2一般廃棄物の削減 可燃ごみ(紙ごみ)	裏紙プリンターの増設。両面印刷機能活用。 用。 リサイクルの徹底、紙の使用量を監視	過剰な梱包やリサイクル紙の再利用。(汚れの無い綺麗な紙類は梱包材として再利用)
6.1事業活動での環境配慮 (納入金額 百万円)	管路防災研究所での視察説明会やセミ ナーの継続実施。	展示会に参加し、水道関連の売上増加を狙う
6.2事業活動での環境配慮 研究開発・実証研究の 完了件数	机上のシュミレーションと実験による実証 を組み合わせて研究開発を推進する	耐震・防災に関する開発を継続
6.3 事業活動での環境配慮 改善提案件数	月一人1件の目標設定を制定	日々業務の時短・効率につながる改善提 案を見つける意識を持つ
7. グリーン購入 環境配慮製品購入品目数	エコ商品の推奨	環境配慮製品の積極的購入継続
8.化学物質の管理 社内規定に従い実施	規定遵守/数量監視	規定遵守/数量監視
9.自然共生活動 ビオトープ等維持	引き続き新たな生物の飛来、定着を目指 す。屋上菜園や植栽活動を継続	生物が定着しやすい植物の補植。 ビオトープのさらなる進化を目指す 10



#### 7.自然共生活動

#### ◇ビオトープ

事業活動において、次の重点課題に関する目標を設定し取組みます。

2007年の当地への移転以来、当社の癒しスポットでもあるビオトープ。 2020年、地元・けいはんな記念公園の監修のもと、約1年をかけて大改修を行い 大改修の一環として老朽化していた池にかかる橋を社内にてリメイクしました。 これで子どもたちに安全に遊んでもらうことがきます。





【作業中の様子】



【残存調整草刈り後】

#### ①生態系維持のための「残存調整草刈り」→継続

植栽管理については生物多様性に配慮して草丈を高く刈り残す、刈り草を樹木の 周辺に積むなど日常的な維持管理に加えて生き物を呼び集め、定着を促進する工 夫を行いました。

この方法を採用することで、生息場所を作り防草・乾燥を防ぐマルチング効果を 生み、有機物を持ち出さずに土壌改良に寄与するなどの効果があります。



#### ②昆虫類の飛来・定着を狙った「補植実験・土壌改良」→継続

ビオトープでみられる生物調査の結果、京都レッドカード認定の「セグロイナゴ」「ショウリョウバッタモドキ」などの生息、定着が確認できました。また、水質についても、環境向上をねらった水辺の植物の補植、鯉の移動後は濁りが改善され、めだかやえびなどを見ることができます。









【セグロイナゴ】

【ショウリョウバッタモドキ】

【メダカ】

【ナナホシテントウの卵】

#### ◇環境整備

正面玄関の芝桜のメンテナンスを行いました。(土壌改良、植替え) また毎週水曜日の朝礼後は全社員での環境整備DAYです。



〈地域の美化活動にも参加〉



◇雨水再利用

屋上に振った雨は配管を通じ、雨水貯留槽に集められます。

このA棟屋根の雨水を受ける面積は合計872.58㎡。

この地域の年間平均降水量は1㎡あたり、約1.476mm。 1年間で、872.58㎡ x 1476mm = 128,798,56㎡の雨が ふると推測されます。(1.5リットル 約86,000本)



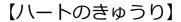


#### ◇屋上緑化

今年は屋上菜園に力を入れ、立派な菜園になりました。夏野菜のきゅうり、なす、枝豆など収穫して試食したり、お土産に持ち帰っていただいたり…土がついた無農薬野菜はとても新鮮で美味しくいただきました。遊び心いっぱいの、「ハートのきゅり」「四角いトマト」は大好評でした。

また屋上緑化には、夏場は室温上昇を抑え又冬場は外に温度が逃げるのを防ぐ効果があり、冷暖房軽減などの省エネ効果があります。







【屋上菜園)】



【枝豆収穫】

#### ◇太陽光発電 (2023年度電力総使用量の約68%相当)

2007年より、本社屋上に10kWの ソーラー発電システムを導入し、 主として事務所の使用電力相当を 発電しています。

「年間約11,500kW h 」



2016年2月より、広島県竹原市にて、 発電事業に参画(クリーンエネルギー 売電事業)。

敷地面積1572m2 45.9kWのソーラー 発電システムを保有しています。

「年間約171,800kWh」





#### ◇SDGs宣言

2015年9月の国連サミットで採択された「SDG s 宣言」。国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。

2020年当社でも「SDGs宣言」しこれまでの会社の取り組みを軸に持続的社会の 実現に向け、自社での取組を講演や執筆を通して、微力ながら貢献できればと考 え、活動を推進しております。

•

#### 日本ニューロンの取組み紹介





全17ゴール92項目の取組 (最新3項目の取組追加)

詳細はホームページをご覧ください

NEW!追加3項目

☆NPOアントレプレナーシップ開発センター 事業支援





☆廃漁網リサイクルの椅子 管路防災研究所

☆能登半島地震(石川県へ寄付) 16 禁続



(1)♥紙製ストローに切り替え(2019.2~)

#### 4. 質の高い教育をみんなに



#### 14. 海の豊かさを守ろう



- (1)♥個人資格取得開始 (2007.7~)
- (2)♥専門家[大学教授]による定期勉強会(2011.9~)
- (3)♥♡♡「CREATIVE50」(2013.6~)
- (4)♥♥♥♥♡ユニセフ・マンスリーサポートプログラム参加(2015.7~)
- (5)♥♥♥♡♡♡「ディーセント・ワーク」企業を表明(2016.7~)
- (6)♥コーチング受講(2021.8~) (7)♥話し方セミナー(2021.8~)
- (8)♥♡♡海外人材へのN検支援(2018.9~)(9)♥♡♡大阪大学接合研究所寄付
- (10)♥♡♡地震ライフライン工学の受講(2021.11~)
- (11)♥♡♡「サウスラボ試験機」水道評価事業(2022.11~)
- (12)♥ NEW! NPOアントレプレナーシップ開発センター 事業支援(2023.2~)
- (1)製造・品証メンバー[計31名]がJIS、ボイラー溶接士、 非破壊検査などを受験、現在76ライセンスを保有。資格手当あり。
- (2)製造メンバーのみならず、営業、設計、品証部全員が 溶接、冶金、材料工学[金属疲労、腐食など]を学ぶ。
- (5)「報酬と厚生」、「やりがいといごこち」重視の職場づくり。 免許取得、更新費用もすべて会社負担。
- (10)地震ライフライン工学の専門家小池武氏による人材育成。
- (12)「グローバルエンタープライズチャレンジ」への支援

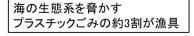


Enterprise Challenge

The Global



(2)♥NEW!廃漁網の再利用 サウスラボ椅子(2022.11~)





プラスチックごみによる海洋汚染。 特にマイクロプラスチックは生息環境に 深刻な影響。 「Apiste HP」より



## 8.環境関連法規等の遵守評価結果、違反・訴訟の有無

#### 8-1 適用環境関連法規等及び遵守評価

主な適用法規	主たる管理	評価
消防法	防火/消火設備管理	適合
PRTR法	SDSの取得と周知	適合
労働安全衛生法	SDSの取得と周知 設備の届出・有資格者	適合
有機溶剤中毒予防規則	作業場、設備の管理・有資格者	適合
廃棄物処理法	廃棄物保管・処理(委託管理) 委託管理関係書類の報告・管理・保管、社内保管場所の掲示	適合
グリーン購入法	エコ商品を優先して購入しているか	適合
京都府環境を守り育てる条例	略	適合
京都府精華町環境基本条例	略	適合
大阪府流入規制(Nox/PM関連)	適合車の許可取得	適合
フロン排出抑制法	第一種特定製品の管理	適合
騒音規制法	特定設備の冷却チラーの管理	適合
高圧ガス保安法	従業員への周知	適合

#### 8-2 違反・訴訟について

環境関連法規への違反や訴訟はありません。

関係当局からの違反等の指摘は、ありません。



#### 9.代表者による全体の評価と見直し指示

次年度へ大いに期待をしている。

(実施日 2024年06月07日)

1.2023年度は、創業50年目にして売上20億円超えを実現できた。 産業プラント分野では、新エネルギー(水素、ITER、ガス化炉等)とごみ処理場 の更新と、環境に大きく貢献する活動ができた。 また、「課題とチャンス」と捉えている水道関連事業の売上も増加しており、

2. 環境活動の結果については、電力および化石燃料等の二酸化炭素排出量はほぼ目標達成できている。この結果は、売上が大きく増加していることを考慮すると効率的な業務ができていると評価できる。

水道関連売上の増加と比例し、水の使用量も増えると予測していたが、減少している結果は、評価できる。日々のこまめな節電節水等が結果として表れている。

昨年、「企業本来の売上、利益の目標を達成し、尚且つ、環境活動の目標達成が望ましい。」と指示をしたが、実践ができた。

改善提案の件数が大幅に減少しているのは残念。 ただ、質の高い改善もあり、品質向上、効率化に有効であった。 次年度は200件以上を必須とする。

- 3. 今年度は、環境経営方針の変更はありません。
- 4. 実施体制は、現状を維持致します。 2022年11月に開所した「管路防災研究所」については、2023年度の環境活動結 果を元に、目標設定を行い、運用していく予定。
- 5. SDG s については、2020年2月に宣言を行い、自社での取組を講演や執筆を通して、社内外へ活動報告を行っております。毎年、あらたな取組を追加し、継続的な活動をおこなっています。



#### 総合評価 見直し・指示

2023年度の評価は良い結果であった。

過去最高売上を実現し、人員も増え、設備も増えたが、環境活動についてはほぼ目標達成をした。

注力している水道事業では、2021年和歌山で起きた水管橋崩落事故のメンテナンスとして新開発製品を採用。また2024年1月の能登半島地震の現地調査に参加するなど、ますます「管路防災研究所」の役割が増してきていると感じる。

次年度は水道事業の売上が大きく伸びることを想定し、さらに人員確保を行う。 生産管理の見える化(非生産時間や限界利益の集計・検証)を継続し、効率的なモ ノづくりを実現していくように。

懸念事項として、本社の前面に建設されたデータセンターによる騒音、振動、黒煙などのによる環境破壊により、ビオトープから虫の声が聞こえなくなりました。今後もこのような稼働が続く中で、現状のビオトープが維持できるのか。 それ以上に、人体への影響が不安である。



<当社正面玄関から撮影>